

藤川コメント：

ゲストの佐藤さんの研究でも言及されていますが、  
職業と結びついた学びはとても意義深いと考えております。  
社会教育員の会議でも少し触れましたが、新規事業としてはじまる「学校・家庭・地域連携  
協働推進事業(教育支援パートナーシップ推進事業)」に期待しています。

ただし、ポータルサイトの作成にあたって  
企業側が提示する内容については、  
登録していただく際のフォーマットを工夫するなどして、視覚的にも内容的にも面白く、学  
校の教員の方々や生徒の方々が使いやすいものであってほしいと願っています。

単に

・会社名／業種／事業内容など一般的な質問項目ではなく  
例えば、下記のサイトのような内容だと面白いものになると思っています。

■カンロ株式会社

<https://shokugyotaiken.com/kaisha-tankyu/kanro>

■株式会社クレディセゾン

<https://shokugyotaiken.com/kaisha-tankyu/saisoncard>

- ・会社をおもしろく表すキャッチコピーが考えられていたり
- ・導入のページにクイズが盛り込まれていたり。
- ・「社会をつくる私たちの仕事」という項目も素敵だと思います。

上記内容に追加して

■働く人から、(このサイトをみるであろう子どもたちへの)メッセージや、やりがい、ど  
うしてこのサイトに登録しようと思ったか、などエピソードも掲載できると血の通ったペ  
ージになるかなとも思います。

また、事前に企業さんへの掲載をお願いする際には  
実際に小中高等学校の先生経験がある県の職員さんたちから集めたニーズでもいいので、  
学校現場が求めている体験を具体的にいくつかチラシなどで示してあげるとミスマッチが  
無さそうだなと思います。

社会教育員の会議の中で本事業について下記のような説明がありました。

「**教育支援活動に意欲的な企業等と学校等が連携**できる基盤を整備することで、子どもに多様な学びの機会を提供するとともに、教育支援活動に意欲的な企業等であることを、県民に広く周知し、社会全体で教育活動に参画していく意識の醸成を図る。」

→事業を進めるにあたって、赤字部分についてもう少しビジョンを明確にしたほうが良いと思います。

「連携」とはどういう状態なのか、がポイントだと思います。

- ・まずは体験に生徒が参加するだけで連携になるのか

- ・体験後に何かしらのつながりが生まれ、参加した生徒や教員とその後何かが行うことなのか

など、目指す最終ゴールやそれまでのステップが明確になるとよりよいものになると思います。

現状では連携のイメージが多種多様すぎて如何様にも捉えられるので

県として最終的に目指したい景色の共有をまずはお願いしたいです。

登録企業数もしくは参加生徒・学校数、有機的な「連携」の定性的な指標などを作り

それで測るなど、ポータルサイトを作ってから活動の追いかけなども必要かと思います。

事前に得体的情報を明確にしておくフォーマットづくりも必要な項目が見えてくると思います。